

第3回ワーキンググループ議事録

2025年8月22日(金)10時～11時

参加者：村松、辻尾、津川、岡部、鈴木、高木（リコージャパン）、小山、鷺尾、豊田、神田

会議の概要

本会議では、3つの主要な議題について議論が行われました。第一に、株式会社大阪教育研究所が作成したロジックツリーの発表と、それに対するフィードバック。第二に、地域活動の進捗として、福島県で計画されているウェルビーイングフォーラムの方向性についての協議。最後に、広報グループからの活動報告がなされました。

トピック 1: ロジックツリーの発表（株式会社大阪教育研究所）

辻尾さんより、株式会社大阪教育研究所の事業内容と、従業員のウェルビーイング向上を目指して作成されたロジックツリーについての発表が行われました。

- 発表者：辻尾（株式会社大阪教育研究所）
- 会社概要:
 - 学習塾（立志館ゼミナール等）、作家養成スクール、英会話学校など多岐にわたる教育事業を展開。
 - 1980年創業で、正社員200名、パート約300名が在籍。
 - AI活用英語学習ツール開発など、ICT教育にも注力。2024年度には近畿地区の学習塾部門で顧客満足度1位を獲得。
- ロジックツリーの詳細:
 - **コンセプト**: 「働くことで人生を豊かにできる会社」を掲げ、従業員と顧客双方の人生を豊かにすることを目指す。
 - **健康投資の成果**: 肉体的健康（怪我・病気予防）、精神的健康（働きやすい環境）、社会的健康（やりがい）の3つの側面から定義。
 - **課題と取り組み**:
 - **肉体的健康**:
 - 感染症対策としてマスク配布や消毒液設置を実施。

- 生活習慣病対策として、健康診断の有所見者率減少を目指し、二次検診の無料化を検討中。
 - 不規則な生活リズム（例：14 時出社 22 時退社）に対し、生活アンケート調査やフレックスタイムの一部導入を推進。
- **精神的健康:**
 - 顧客からのクレーム（例：「盗作疑惑」など）に対応するため、第三者窓口やクレーム対応担当者を設置。
- **社会的健康:**
 - 作家養成スクールでの「やりがい」向上のため、プロになる以外の顧客満足度向上を目指し、顧客アンケートの見直しを検討。
 - 特定の従業員への業務集中を防ぐため、業務量の調整や役割分担の明確化を図る。
 - 従業員のアイデアを事業化するため、「新規案件採用の制度化」を推進。
- **フィードバックと質疑応答:**
 - 岡部：残業時間への対策について質問。辻尾さんと津川さんより、みなし残業制であり、生徒対応で定時退社は難しいが、持ち帰り仕事を減らし早出で対応するよう推奨していると回答。岡部さんは「新規事業は社員のモチベーションに繋がる」と評価しました。
 - 鈴木さん：生徒の結果が出ないことによるトラブルについて質問。辻尾さんより、結果そのものより「誰かが大きい賞を取った時に、先生もちょっとひいき目になったりとかは感じます」といった周囲の反応が問題になることがあると説明がありました。
 - 高木さん（リコージャパン）：二次検診の受診状況について質問。津川さんより、自覚症状がないため受診しない人が多く、費用が問題ではないとの見解が示されました。高木さんは、自社で「社長名でレッドカードというのを出して」「半ば強制的に」受診率を向上させた事例を紹介しました。
 - 村松：人材育成の要素がロジックツリーに含まれているか質問。辻尾さんは「やりがいの部分かなと思うので、参考にさせていただいて、項目に対する課題でまた追加させていただこうと思います」と回答し、今後の更新で反映させる意向を示しました。
 - 小山：自社の経験として、クレーム対応担当者向けに「定期的に臨床心理士の面談を入れた」ことがメンタルヘルス維持に効果的だった事例を共有しました。
 - 神田：やりがいの指標として、賞の受賞や制作物の完成なども考えられると提案しました。

- 鷺尾：「ロジックツリーを作ったことによって話し合うことができた」と、作成プロセス自体の価値を強調し、二次検診未受診者には労働安全衛生法 66 条を根拠に受診を促す自社の方法を紹介しました。
- 豊田：1 年後を目処に、取り組みの評価までをセットで行うことを提案し、辻尾さんもこれに同意しました。

アクションアイテム

- ・ ロジックツリーの更新：「やりがい」の項目に「人材育成」に関する課題と取り組みを追加検討する。
 - ・ 辻尾さん 次回更新時：村松先生からのフィードバックを反映。
 - ・ 担当者のメンタルケア検討：クレーム対応担当者（辻尾さん、津川さん）のメンタルケア施策（例：専門家による面談）を検討する。
 - ・ 辻尾さん、津川さん：小山さんからの提案を参考にする。
 - ・ 取り組みの実施と評価：ロジックツリーに基づいた健康投資の取り組みを実施し、約 1 年後にその効果を評価・報告する準備を進める。
-

トピック 2: 地域活動の進捗報告（福島フォーラム）

豊田さんより、福島県で計画中のウェルビーイングフォーラムに関する進捗と、今後の方向性について議題が提示され、議論が行われました。

- 発表者：豊田さん、鷺尾さん
- 背景と現状:
 - 8 月 2 日にコア会議を実施し、11 月に郡山商工会議所でウェルビーイングフォーラムを開催する案が浮上。
 - 共催・後援として、福島県、県商工会議所連合会、郡山商工会議所、協会けんぽ福島支部などに協力を依頼中。
 - プログラム案として、村野先生による基調講演と、古井先生がファシリテーターを務めるパネルディスカッションが挙げられている。
- 主な論点:
 - 鷺尾さんより、フォーラムの対象を「福島県に特化」するのか、東北初の開催として「東北全体」を視野に入れるのか、方向性を定める必要があると提起されました。
- 方向性に関する議論:

- 村松：協議会の全国展開というビジョンに基づき、「東北全体にも、まあ参考になる、まあためになるっていう話の方がいいのかな」と、より広い視野での開催を支持しました。
- 岡部：開催形式に依存するとし、現地開催のみなら福島特化、ハイブリッド開催なら東北全体が良いと提案しました。
- 豊田：東北への波及効果を狙いつつも、「福島の特色っていうのを完全に消しちゃうっていうのは、やっぱり私はもったいない」と、福島の独自性を活かすべきとの考えを示しました。
- 鷲尾：議論を受け、「東北でという名目で行いながらも、福島の話をやっぱ盛り込みながらっていうのがいいんですかね」と、両方の要素を取り入れる方向性を探りました。
- 村松（アクサ生命の立場として）：最も大切なのは「わしお様がこの福島の中で、まずはあの健康投資、健康系を広げたいっていう思い」であり、鷲尾さんが福島の仲間と発信する形が良いのではないかと提案しました。
- 鈴木：「内容は福島に尖らせた方がいい」と主張。具体的な取り組みが結果として東北全体に波及するモデルが良いとの見解を示しました。
- 辻尾：福島は「世界最先端の課題」を抱えており、福島に特化した内容でも他地域の参加者は自身の課題として捉えることができるため、問題ないとの意見を述べました。

● 結論と次のステップ:

- 最終的な方向性については、今回の議論を基に鷲尾さんがアクサ生命の担当者（百束様）と協議を進めることになりました。
- 方向性が固まり次第、パネルディスカッションのテーマなどを具体的に詰めていきます。

アクションアイテム

- ・フォーラムの方向性協議：今回の議論を踏まえ、アクサ生命担当者とフォーラムの方向性（対象範囲、テーマの焦点）を協議する。
- ・鷲尾さん（サポート：豊田さん）：次回会議まで。福島特化と東北への波及のバランスを検討。
- ・プログラム内容の再検討：決定した方向性に基づき、パネルディスカッションのテーマや構成を具体的に再検討する。
- ・鷲尾、豊田：次回会議まで。議論の内容を反映させる。
- ・進捗報告：次回ワーキンググループ会議にて、フォーラム準備の進捗状況を報告する。

オープンクエスチョン

- フォーラムの最終的なターゲット（福島県 or 東北全体）をどう設定するか？
 - 共催・後援の依頼範囲を、福島県外（例：宮城県など）にも広げるべきか？
 - 福島の特色を出しつつ、東北全体にも有益となるようなプログラムをどのように構成するか？
-

トピック 3: 報告事項（広報グループ）

小山さんより、広報グループの活動状況について報告がありました。

- 発表者：小山
- 活動報告:
 - 8月4日に広報分科会を実施し、SNSを通じた継続的な情報発信の方針を確認しました。
 - 課題：協議会の公式ホームページに掲載されているメンバーのプロフィール情報が古くなっている点が指摘されました。
- 今後の対応:
 - 11月の福島フォーラム開催までに、各メンバーにプロフィール内容の確認と更新を依頼します。
 - 福島フォーラムの詳細が固まり次第、SNS等で積極的に情報を発信していきます。

アクションアイテム

- ・プロフィール更新依頼：全メンバーに対し、ホームページのプロフィール内容を確認し、必要に応じて更新するよう依頼する。
- ・豊田：11月まで。福島フォーラムに向けた情報整備の一環。
- ・フォーラムの広報：福島フォーラムの開催概要が決定次第、SNS等で広報活動を開始する。
- ・広報グループ：詳細決定後、速やかに実施。